

## 家賃不足錢年賦定之事

一 合拾五貫五百七拾七文也

但 未年より西七月  
マテ不足

右者茂右衛門存命中家賃不足錢相違無御座候  
處此度古借共御取立被成度御催促被仰付候得共  
婦人之身にて俄皆済可仕手段も無之、殊凶年  
之時節旁以甚夕難儀仕候付此度右不足

錢ヲ以借親相拵五年賦之儀何卒御聞済

被下候様御歎申上候處、別段之御憐察ヲ以

御承知被成下候段重々忝仕合奉存候、右等

無利足年賦御座候得ハ無間違五ヶ年之間

毎年七月十日十一月廿日切老貫五百五拾七文宛  
差上可申候、万々一借主借親共不算用仕候節ハ  
段々御恩借之事故請人より御断ケ間布義不申述  
早々御算用可仕候、為後日念之恩借年賦

證文仍而如件

借主茂右衛門後家

たか (印)

天保八年

借親嶋屋

六兵衛 (印)

西八月日

受人坪屋

甚右衛門 (印)

大谷藤之丞様

御家守衆中